

重点施策9 地域ぐるみで取り組む青少年補導の充実強化

【施策方針】

情報化・国際化・少子化・家庭教育の弱体化等、激動する社会の変化に伴い、人と人との連帯意識の希薄化・コミュニケーション不足、価値観の多様化により、子供たちを取り巻く環境は年々深刻化している。

こうした状況のもと、次世代を担う青少年の健全育成を推進するため、明るい対話のある家庭づくりと、楽しい魅力ある学校づくりを推進し、青少年をめぐる環境点検と有害環境の浄化、(特にネット犯罪防止)に努めると共に、青少年センターが中心になり、学校・警察・関係団体と情報交換を緊密にして、補導活動を行う。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 急増するネット犯罪への研修を深め、補導活動・相談活動の充実に努める
- ② 環境浄化活動・防犯相談所活動の充実に努める

(2) 施策・事業の実施状況

① 補導活動・相談活動の充実

社会の変化に対応し携帯電話やパソコンのネット犯罪、カラオケ、ゲームセンター、喫煙、薬物乱用等に留意し実態把握に努めると共に、不安定な心理の青少年に「愛の声かけ」を中心に、適切な助言アドバイスを行いながら支援・援助活動を行った。

市内15小学校区に13支部を擁する補導員会では、205名の会員が地区補導・中央補導・特別補導など、174回の補導活動に延べ893人の補導員が参加した。

また、青少年や保護者による悩み事の相談が数件あり、学校等とも連携し適切な対応を心がけると共に、必要な助言や指導援助を行い問題解決にあたった。

② 環境浄化活動・防犯相談諸活動の充実

青少年のためのより良い環境づくり、地域ぐるみの点検、実態調査などの活動を促し、不良・有害環境の整備、浄化を図った。

学警連と防犯協会等が連携し、市内全域に21の防犯相談所を設置し、悩みをかかえる子どもたちの発見と支援に取り組む相談活動を展開している。青少年センターは、来所または電話による相談に応じると共に、不審者情報があるときには、保護者等に向け、注意を呼びかけるメール配信を行っている。(メール配信サービスの維持費は青少年センター負担、情報入力はPTAによる。)

【学識経験者意見】

○ 八幡浜市では他市町と比べ青少年の問題行動が少なく、市内全体が大変落ち着いているように感じる。これは、学校が落ち着いているからであろう。それは、一人ひとりを大切にする学校経営により、学校に居場所があり、心地よさを感じているからだろう。さらには、範を示す大人が周りに大勢居るということもあると思う。

そして、そんな温かい街の雰囲気を支えているのが、「愛の声かけ」を中心に適切な助言・アドバイスを行いながら動いていただいている、市青少年補導員会メンバーの地道で熱心な活動があると思う。

○ 青少年の健全育成のため、補導員会・防犯協会・警察等が良好に連携しながら、今後とも補導や相談等の活動が実施され、子どもたちを取り巻く環境を浄化して、より良い環境作りのための取組をお願いしたい。

【自己評価】

□ 市内の子どもたちが落ち着いている要因の一つが、市青少年補導員会の地道な活動である、と評価していただき大変うれしく思う。その補導員会は、補導員自身の資質の向上を目指し、毎年「補導員研修会」を実施している。今年度は、「今の子どもに伝えたいこと」と題して、八幡浜警察署生活安全課少年補導職員、宮崎希望さんに講話をいただいた。非行少年たちとの豊富な関わりから得た話は、一つ一つうなずかされ、大変有意義な研修となった。それぞれの補導活動に活かしてもらえるものと思う。

□ 学警連では、小学校の事例を高等学校の先生も真剣に聞く。高校のそれを小学校も聞く。全員が、市内の小中高校生のためにという意識で考え、動いてくれる。これが成果につながっているように思う。

□ 「青少年センター」の活動の一つに相談活動がある。その相談実績はほんの数件で、まだまだ相談場所としての認知がされていないように思う。機会をとらえ広めていくことが必要と考える。また、職員の被相談者としての技能の向上も求められている。子どもたちや保護者の悩みの解決に少しでも役立てるよう自己研修に励みたい。